特別企画
第１８回「水の都とやま取材の旅」
取材記者の見た富山

▲初日は松川遊覧船で歓迎ディナークルーズが行われ、富山県議会議長・杉本正氏より歓迎の言葉をいただいた。

★「水の都とやま取材の旅」とは…

弊誌発行人・中村孝一が企画し、平成８（１９９６）年より毎年開催している「水の都とやま合同取材会」である。全国の情報誌を毎回約10誌招待し、富山市中心部をメインに観光スポットをガイド。各誌（紙）の記者並びにカメラマンに取材してもらい、各メディアにて富山の魅力を紹介してもらう企画である。

本企画は今年で18回目を迎え、今回で延べ１９０誌に参加頂いた。本年は５月26日（日）、27日（月）に実施した。

とやま取材の旅　1日目　富山市内中心部散策コース

◎「ホテルグランテラス富山」ロビー集合・出発！
⇐
◎「松川遊覧船」で城下町めぐり
⇐
◎「富山市庁舎展望塔」で、富山市内を見渡す
⇐
◎「富山市郷土博物館」で富山の歴史を学ぶ
⇐
◎「セントラム」に乗車
⇐
◎「池田屋安兵衛商店」で富山の薬文化を体験
⇐
◎「総曲輪グランドプラザ」、「大和富山店」、「総曲輪通り」を見学
⇐
◎「セントラム」に乗車
⇐
◎歴史ある石造りの「富山県庁」見学
⇐
◎松川茶屋内「滝廉太郎記念館」で、富山と滝廉太郎の関わりを学ぶ
⇐
◎「松川遊覧船」ディナークルーズで、参加記者歓迎レセプション
⇐
◎「富山市庁舎展望塔」から、富山の夜景を眺める
⇐
◎「ホテルグランテラス富山」宿泊

▲富山郷土博物館では、萩原大輔学芸員から富山城の歴史をわかりやすく解説していただいた。

全国から9誌が参加し、富山市を取材

今回の「取材の旅」に参加したのは、次の9誌の14名の記者とカメラマンたち。

◇月刊「Ｖｉｅｎ（ヴィアン）」〈群馬県〉
◇情報誌「ｔｒｉｃｏ（トリコ）」〈神奈川県〉
◇女性と暮らし「マチュア」〈大阪府〉
◇和歌山タウン情報「アガサス」〈和歌山県〉
◇月刊「日本橋」〈東京都〉
◇まるはりエクスプレス〈兵庫県〉
◇月刊「武州路」〈埼玉県〉
◇「パレット」嶺南版・南加賀版〈福井県〉
◇「はっぴーママ」東京ベイ／千葉版〈千葉県〉

富山の中心部で富山の魅力を新発見！

参加記者に前もってアンケートを行ったところ、富山のイメージは「自然豊か」、「水がきれい」、「海の幸がおいしい」など。この機会に新たな富山の魅力を発見し、発信したいという、力強い声が多く聞かれた。

▲池田屋安兵衛商店で熱心に取材する記者たち。

宿泊先であり、集合場所の「ホテルグランテラス富山」を午後1時に出発し、富山城址公園内の「松川遊覧船乗り場」へ。船長から松川や富山城の歴史について説明を受けながら船に揺られて行くと、〝親水のにわ〟では水遊び中の子どもに出会う。また、餌を狙うサギや、水中をゆったり泳ぐ鯉などが見られ、記者たちからは「街中で、間近にこんな光景が見られるなんて」と驚きの声が聞かれた。

下船後は、青空のもと、「富山市庁舎展望塔」から富山市内を眺める。市庁舎のデザインは、記者たちにはとても斬新なものに映ったようだ。次に、「富山市郷土博物館」へ。富山城の築城から明治時代以降の城址の変遷について学び、天守展望台から当時の広大な敷地を実際に目で見て実感する。

『国際会議場前』からセントラムに乗り、『グランドプラザ前』で下車。老舗の風格を残す「池田屋安兵衛商店」で、池田安隆社長より富山の薬文化について教わった。自家製野草アイスクリームの試食や丸薬製造体験などもあり、記者たちは積極的に〝薬の富山〟を体感していた。

富山の中心繁華街を通り、『中町（西町北）』（5月17日新設）からセントラムに乗車。『県庁前』で下車し、昭和10年に完成した重厚な富山県庁舎の建物を見学する。

さらに、松川茶屋内の「滝廉太郎記念館」では、少年時代の約2年間、富山城址内にあった小学校に通っていた滝廉太郎のエピソードを学んだ。

夕暮れも迫る中、松川遊覧船上で歓迎船上ディナークルーズを開催。富山県議会議長・杉本正氏、月世界本舗社長・吉田榮一氏、池田

屋安兵衛商店社長・池田安隆氏、キリンビールマーケティング㈱富山支社長・福原範朗氏が華を添えて下さり、歓迎ムードが盛り上がった。今回の取材の旅の参加を記念し、杉本正・県議会議長から『富山観光大使』任命証が直接手渡され、記者たちは翌日の取材に向けて気合い十分！最後に富山の美しい夜景を「富山市庁舎展望塔」から眺め、宿泊先の「ホテルグランテラス富山」へと向かった。

とやま取材の旅　2日目　富山の特産&歴史めぐり

◎「ホテルグランテラス富山」を貸し切りバスにて出発！
⇐
◎梅かまミュージアム「U―mei館」で、かまぼこ作り見学
⇐
◎「元祖　せきの屋」で、ます寿し作りを見学
⇐
◎「月世界本舗」で富山の銘菓を味わう
⇐
◎「磯部の一本榎」、「早百合観音祠堂」を見学し、富山に伝わる早百合姫伝説について学ぶ
⇐
◎富山駅前の「いきいきKAN」で富山の観光物産を知る

▲富山の様々な名産品がそろう「いきいきKAN」。観光情報コーナーも充実している。

富山の特産品を五感で味わう

2日目は、バスで梅かまミュージアム「U―mei館」へ。奥井健一社長から、かまぼこの歴史や富山のかまぼこの特徴などを伺い、細工かまぼこづくりを見学する。様々な商品の試食も行われたが、記者たちは「かまぼこが板に付いていないので驚いた」、「健康食であることを初めて知った」と興味深そうに取材を行っていた。

次に訪れたのは、明治11年創業の「せきの屋」。前川雅美社長が、富山のます寿しの由来を語った。実際の製造過程を見、作りたてのます寿しを試食した記者たちからは、「ます寿しは以前から大好きな駅弁。シンプルな作りだからこそ、伝統の技が光るのだろう」との感想が聞かれた。

サクラパックス㈱

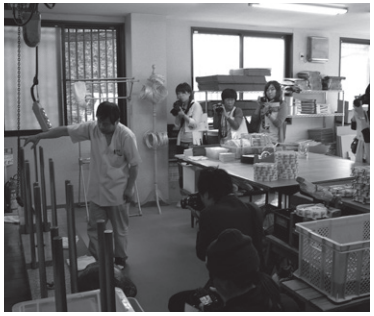
富山銘菓の老舗「月世界本舗」では、吉田榮一社長が「皆さん、まいどはや」と、越中富山のあいさつ言葉で出迎えてくださる。前日のディナークルーズで、吉田社長とはすっかり顔なじみの記者たち。看板商品「月世界」と「まいどはや」の名前の由来などを伺った後も、熱心に質問する姿が見られた。

次に向かったのは、神通川沿いの磯部町。佐々成政が愛妾・早百合姫を吊るして惨殺したという伝説が残る一本榎のあった場所だ。富山城にまつわる悲哀のこもった伝説に、記者たちからは驚きの声が上がっていた。また、すぐ横を流れる神通川の様子を見た記者からは、「今の松川の場所に、昔はこんな大きな川が流れていたとは…」、「この川が蛇行していたら、さぞ洪水が多かっただろう」との声が聞かれた。

最後の取材場所は、富山駅前のCiC5階にある「いきいきKAN」。富山の観光物産を一堂に取り揃えた施設だ。総務部長の舟崎滋良氏から、特産品の販売のほか、各種体験コーナーも人気との説明を受けた記者たち。チンドンロボットが出迎える「チンドンミュージアム」や「くすりミュージアム」などに興味津々だった。

この2日間の旅を通し、富山のイメージはどのように変わったのか――。取材記者たちから、感想を聞いた。

▲かまぼこの由来をユーモアたっぷりに説明する「梅かま」の奥井健一社長。



▲「せきの屋」では老舗ならではの、昔ながらのますの寿し作りを見学。

▲「月世界本舗」で、富山伝統のお菓子をじっくり味わう。

富山市内の魅力を再発見！

○路面電車で行ける範囲に、松川遊覧船や郷土博物館、老舗の薬屋さんなど、たくさんの見どころがあるのが富山市の魅力。これから高齢化社会へと向かう中、とても人に優しい街との印象を受けた。
（月刊武州路編集長・角田博史氏）

○町の中心部で遊覧船に乗ることができ、とても感動した。地元の日本橋も水の街だが、こちらの川では街と川が一体化していて、人と水の関わりが近いように感じた。
（月刊日本橋・堀尾志歩さん）

○富山は田舎だろうと思っていたが、駅に降り立ってみると意外に都会で驚いた。けれど、松川遊覧船に乗ると、まったく別世界のゆったりとした自然の光景が広がっている。そのギャップにとても富山らしい魅力を感じた。
（まるはりエクスプレス編集長・高原成暢氏）

○富山＝大自然のイメージだったが、市内の中心部にも見どころがたくさんあった。富山の人は、優しく奥ゆかしい中にも、熱い郷土愛を胸に秘めておられる方が多いなと感じた。
（はっぴーママ 東京ベイ／千葉版・伊藤恵里子さん）

○これまでは富山に来ても、すぐ立山などへ行ってしまったため、市内は通り過ぎていた。けれど、今回は市内にも楽しめるところが多いことに気づいた。郷土色の豊かな富山の街で、遊覧船にゆったりと揺られるだけで、癒される気分になるように思う。
（女性と暮らし マチュア プロデューサー・松井智子さん）

○松川遊覧船に乗り、人と川の距離がとても近いことに感動した。また、路面電車が走っていることで、街全体が穏やかで心を癒してくれるような空間になっているように感じた。
（月刊Ｖｉｅｎ編集長・萩原のり子さん）

協賛企業及び団体（五十音順）

◎一般財団法人 とやま観光物産センター いきいきＫＡＮ
◎池田屋安兵衛商店
◎梅かま
◎ますのすし 元祖 せきの屋
◎月世界本舗
◎富山観光遊覧船
◎富山県観光連盟
◎富山市郷土博物館
◎ホテルグランテラス富山

率直な意見

さまざまな人に聞く

ヘンリー・デービッド・ソロー（思想家）

〝今日の学問は世界を望遠鏡や顕微鏡を通して眺めるが、直接、自然の目を通して眺めることをしない。化学を学びながら、パンがどうして作られるかを知らず、機械学を学んでも、どうしたらそれを動かすことができるのかを知らない。（中略）酢の一滴の中にいる怪物を発見することはできても、自分の周りに群がり寄る怪物には気づかず、ついに、むさぼり食われてしまう。〟

メイバル・ガレスピー（詩人）

〝人は、犬がその主人について行くように、彼の空想についていくものだ。だから、あなたも夢を持ちなさい。それが、あなたに希望をもたらし、人生を導いてくれるだろう。空想こそ、あなたを成功させるものなのだ！〟

吉田松陰（思想家・教育者）

〝夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし。〟

エルマー・ホイラー（経営アドバイザー）

〝自慢するのではなく――あなたの最高の特長を強調しなさい。それを接する人に売り込みなさい。もし、あなたがそれを隠していたら、いつまでたっても誰もあなたの隠れた才能を発見できないのだから。〟

トルストイ（作家）

〝謙虚な人は誰からも好かれる。それなのに、どうして謙虚な人になろうとしないのだろうか。〟

ジャン＝ジャック・ルソー（思想家）

〝子供を不幸にする一番確実な方法は、いつでも、なんでも手に入れられるようにしてやる事である。〟